

第 30 号

平成16年10月20日発行



REPORT

JAPAN SPORTING GOODS RETAILER

編集：日本スポーツ用品協同組合連合会

日本スポーツ用品協同組合連合会

発行：日本スポーツ用品協同組合連合会

〈2004/8~2005/7のスローガン〉

何かある！「努力で活かそう地域の特性」



9月15日、JSRとなって5回目という節目の全国大会が京都府組合の主管によって、京都全日空ホテルで開催されました。京都府組合の皆様の熱意が実って、今回は始めて、47都道府県総ての組合員の皆様のご出席を頂く事が出来ました。組合員186人、卸さん、メーカーさん等53人、合計239人の方々のご出席を得て盛大に、そして京都らしく開催されました。

今年は役員改選の年に当たり、次のように新しい人事が決まりました。

《新役員リスト》

JSR理事長は留任で辻本昌孝（愛知）、副理事長は小関和夫（山形）、清水誠一（京都）が留任、新しく竹原和彦（福井）、門田忠尚（高知）が新任。専務理事に岩満一臣（宮崎）が新任。理

事として田中三夫（秋田）、町田宏遠（埼玉）、貫井清三（東京）、高野征宣（神奈川）、服部昌三（岐阜）と5人の方が留任、同じく理事として矢野幸太郎（兵庫）、尾坂真人（鳥取）、武宮兼敏（福岡）が新任。今回から新しく導入された員外理事として、上田善重（滋賀）と、澤田基朗（岐阜）、重森 仁（滋賀）が新任。監事として水島隆司（大阪）、神山利秋（山梨）お二人が留任されました。（敬称略）

《JSRの2004年度のスローガン》

何かある！「努力で生かそう、地域の特性」が報告されました。

9月15日14：20より、京都大会・式典の部が開催されました。事前に京都十二楽章のビデオ放映により、ムードを盛り上げ、主管京都の後藤俊

策実行委員長の司会により進められました。

最初に、物故者黙祷があり、続いて、京都を代表して清水誠一理事長が挨拶、J S R 辻本昌孝理事長の挨拶があり、全運団連鬼塚喜八郎名誉会長、同じく全運団連渡辺泰男会長からご挨拶を頂き、恒例の功労者表彰を行い辻本理事長から表彰状と記念品が手渡されました。

#### 《2004年 J S R 功労者表彰 リスト》

岩手県	長谷川 博	(株)長谷川スポーツ
岩手県	森澤 義久	(株)モリサワスポーツ
秋田県	五嶋 一夫	(有)ワールドスポーツショップ
福島県	田中 淑雄	(有)田中スポーツ
栃木県	武田 義雄	(有)マルタケスポーツ
群馬県	小野里 重雄	ラッキースポーツ
埼玉県	中富 勇	(有)弘武道スポーツ
東京都	佐伯 三郎	スポーツショップ佐伯
神奈川県	加藤 道夫	(有)カトウスポーツ
山梨県	飯田 寛	イダスポーツ
石川県	南口 徹	丸善スポーツ
福井県	伊藤 健二	スポーツショップいとう
静岡県	西谷 祥和	ニシタニスポーツ
岐阜県	竹中 敏夫	(株)竹中スポーツ
京都府	北村 昭幸	京美堂運動具店
大阪府	池上 茂	(株)中央スポーツ
兵庫県	藤井 英喜	(株)中央運動具店
広島県	沼野 博	(株)ジャバ
山口県	大林 哲夫	(株)大林スポーツ
徳島県	宮島 厚	ミヤジマスポーツ
長崎県	井手口 幸満	浦上スポーツ店
宮崎県	坂口 衛	晃正運動具店

以上22名の方が、功労者表彰を受けられました。

8月13日から始まったギリシャ・アテネ・オリンピックの日本の柔道、女子レスリング、体操、水泳、陸上、女子バレーなど沢山の若者の活躍を見ようとテレビに釘付けとなり日本国民総寝不足状態になりました。

私はJ S R 京都大会式典の部の理事長挨拶で、このアテネの素晴らしい活躍を手放しで喜んでばかりいられないという挨拶をさせて頂きました。それは活躍してくれたアスリート達の活躍は本当に素晴らしかったと認めますが。彼らの活躍が即、日本のスポーツ行政、文部省の教育行政の評価になることを恐れたからです。トップアスリート達の活躍に比例して、日本の青少年体力の底上げがされたならいいのですが、二極化したトップがレベルが高くなったが、底辺が更に、落ち込んでいくように思うからです。

今年は、役員改選に於いて、初めて員外理事の制度に従って力を貸して欲しい新しい方を指名させて頂きました。その内のお一人澤田基朗さんは、岐阜県で「長森・日野スポーツクラブ」の理事長



京都運動具商協同組合  
清水誠一理事長の挨拶

としてご活躍です。就任されて6年という事ですから、総合型地域スポーツクラブの本当に走りの頃から、活動しておられるという願っても無い方です。

文部省は、土曜日、日曜日に学校で部活を止めた分の受け皿は、地域でとっておりますが、スムーズに行われておりません。私は日本の教育の為にも、地域スポーツを成功させなければ、日本の将来が心配に思っております。組合員の皆様には是非、地域スポーツにかかわってもらいたく、意識ある人に、アドバイスしていただきたく澤田基朗さんに員外理事として参加して頂きました。

オリンピックに続いて、プロ野球の1リーグ制問題が浮上し、このストライキについても、近畿、中国の方々から支持しようというFAX. を頂きました。ストライキ問題は解決し、セリーグではドラゴンズが優勝いたしました。

ドラゴンズは落合監督が補強無しで引き受け、オレ流で1軍2軍合同で、体験厳しい合宿をし、守りの野球に徹して、地味な野球で優勝いたしました。

又、1日おいて、イチローがアメリカのメジャーのシスラーの記録257本を抜いて、262本まで記録を伸ばしました。「体が小さな自分でも記録を作る事が出来た。子供たちに伝えたいのは、自分の可能性をつぶさないで欲しいということ。自分の能力を生かすことが出来れば可能性は広がる」と未来のイチローにアドバイス。

これらの話は私達にとりまして学ぶことの多い、良いアドバイスではないでしょうか…。

私達は、かけ離れた存在の大型店の、その規模と商品量に圧倒されてしまい意欲を失ってしまいがちですが、それでも、あきらめないで、元気を出して身近な出来る事を自分のやり方で、日々コツコツと、やり続けたいものです。

夢をもって、そのための方法が、「どうしたらうまく出来るか…」「何故、このやり方なのか…」と自問自答しながら、生き残るための努力を続けようではありませんか…。

(J S R 理事長辻本昌孝)



後藤



宗田

## 第5回 JSR 京都大会を終えて

第5回 JSR 全国大会実行委員長 後藤 俊策  
京都府運道具商協同組合 総務理事 宗田 千耕

さる9月15日(水)全国都道府県の組合員・メーカー卸等240名を迎え「何かある! “努力で活かそう地域の特性”」のスローガンのもとで、京都大会が盛大に開催されました。この日のために、一年前から準備に入りましたが、大会のテーマとして掲げたその第一は、「京都で勇気と元気を持って帰っていただく大会」にして、第二は「予算を前回大会より少しでも安くして、参加しやすくする」そして第三に「エクスカッションで思い出を持って帰っていただく企画」という事を3本柱に致しました。さて我々の準備は第一に福岡大会に7名の理事が、参加する事からスタート致しました。次に全国から多くのお客様を迎えるために「2004おこしやす京都」というチラシを作り参加者全員に配布させて頂きました。ご承知の通り、京都観光といえば寺社仏閣が定番になっていますが、京都人でも余り経験していない「嵯峨野トロッコ列車と保津川下り」の観光コースと瀬田G.C(北コース)女子プロトーナメントコースでの三層親睦ゴルフ大会を計画致しました。また宿泊場所は、世界文化遺産「二条城」前の京都全日空ホテルとし、福岡大会までにその由来を文献等をひもとき、そしてチラシもカラー刷りにして、大会一週間前に福岡組合にお届け致しました。9月16日(木)の参加者は、ゴルフは19名、観光は43名と今までにない多くの参加を得る事が出来ました。又全国理事長会議の翌日の二条城見学も、39名の方が見学されました。

さて、今回の大会の第一の柱である研修の部につきましても、平成13年度の近畿ブロック総会にお迎えしたルネッサンス・ユニバシティ代表取締役小田全宏先生をお願いさせて頂きました。再び小田先生からこの全国大会にて講演を頂き「京都で元気と勇気を持って帰って頂く大会にしたい」という願いでいっぱいでありました。講演に際しました、講師に対しまして大変失礼なことではありますが、京都組合から6項目の要望書を提出し、お願いをさせて頂きました。今回の講演の締めの前に、小田先生は、コップに半分水を入れられ、「コップに、まだ半分もある…」「コップ

には、もう半分しかない…」皆さんはどちらですか?と問いかけられました。そして“陽転思考”とは「人生に起こるあらゆる出来事があるがままたに受けとめ、感謝の心を抱きつつ、ベストを尽くして生きる」という受け方であると結ばれました。今私たちにとりまして最も必要大切な言葉ではなかったでしょうか…?参加者の皆様から「講演が素晴らしかったネ…」という声を頂き安堵した次第であります。

またもう一つの研修では(社)日本ウオーキング協会の副会長の村山友宏先生をお迎えして「ウオーキングの歩みと通年基地について」と題した講演を頂きました。過去のパネルディスカッションや今回の二部構成にする等とは、その評価については優劣を、おのずからつけることになり、次期大会には、これらを踏まえ、十分に考慮すべきと考えます。

第二の参加面において、時期的なこともあり組合員に少しでも負担の軽減をはかって一人でも多くの方々が来られるように配慮させて頂きました。

これはホテル側と長期にわたり折衝し9月14日・15日の両日参加費を、それぞれ1000円の節減をはかったことであります。

これも当組合とホテル側とは10年近くのつきあいがあり、(当組合の総会や近畿ブロックの総会)今回の全国大会に対して、ホテルの皆さんが全力を尽くして応援頂くことにつながりました。

また、総会終了後の三層懇親会では、福岡甲部の舞子による『祝舞』と重要無形文化財の『壬生六斎念仏』の演技を堪能されました。また、その後の二次会では、多くの方々が、夜の祇園町の「お茶屋」等で楽しまれて、大変喜んでおられ良い思い出をもってお帰りになりました。近畿ブロックの各県役員や京都の組合員も数多く参加して頂きました事に、ただただ感謝の気持ちで一杯であります。2005年は栃木県組合の主催で開催されます。どうぞ栃木の色を十二分に発揮された大会を成功されるよう祈念致しまして御礼と御報告とさせて頂きます。



# ショウバイ考 14

## 商売の内容は生売……その2

JSR顧問

安部 純平

### 商品は生(なま)ものである

私達の取扱っている商品は生(なま)ものであります。魚や野菜、果物と同じように考えねばならないと思います。

私達の商品にも旬があり、賞味期限もあることを忘れてはなりません。

旬は短い期間ですが、その商品の光り輝く時季です。私達が懸命に販売努力しなければならない時期です。

旬が過ぎれば、その商品の賞味期限が近づいてきますから、今度は在庫に注意を払わねばならない時期となります。

八百屋さんでは、季節季節の野菜が、瑞々しい姿で並べられています。スーパーの野菜に較べて、八百さんの野菜の方が元気が良く、おいしそうに見えるのですが如何でしょうか。

ある時、八百屋さんのご主人が、野菜の一束一束にキリをかけておられるのを見ました。果物屋さんでは、一個一個の果物を丁寧に拭いておられるのを見ました。果物はピカピカと艶があり、生き生きとした新鮮さを感じました。生(なま)ものは手が掛かるものだと知りました。

皆さんのお店の商品にも、このように日々手をかけておられるでしょうか。

毎朝、ウェア類にはブラッシングをし、バットやスパイクを柔らかい布で拭いておられますか。そのうえに、一つ一つの商品に語りかけて下さい。「今日こそ、あなたを大切にしてくれるお客様を見つけてあげるからネ」と。

必ず商品が生き生きとして、動きが活発になってくること請け合いです。

### 生(なま)物は処分で利益が違う

賞味期限が近づいた商品は、通常値下げ販売で処分します。魚屋さんや八百屋さんでは、賞味期

限を過ぎたものは、捨てなければなりませんから、いかに売り切るかが非常に大切になります。

私達のスポーツ品は、腐るわけではありませんので、値下げで在庫減らしを計るのですが、思い切った処分がされてないと思います。

それは原価を考えて下げ洩りができることと、最後残れば、来シーズン売ればよいという甘い判断が働くからだと思います。

しかし、シーズン過ぎた残りものは、陳腐化するし、在庫管理に手間がかかるし、資金は寝るしというやっかいものであります。

そこで思いきって処分するお呪いを試して頂きたいと思います。

いま、一着10,000円の冬物ウェアが数着のこっているとしします。これを来シーズン幾らにすれば全部売り尽せるかと考えます。仮に、6,000円なら処分できるとしします。一着10,000円の商品を一年手元に寝かせて来シーズン、6,000円回収できるものを、今処分するとしたら幾らで売ることができるのか。これを考えるのです。

これを考えるのに二つのカギが必要です。一つ、あなたのお店の粗利率(23%であるとしします。)二つ、あなたのお店の商品回転数(年4回としします。)1年先で処分できる価格÷(1+粗利率)<sup>商品回転数</sup>=今の処分価格

$$6,000 \div (1 + 0.23)^4 = 2,620$$

これがお呪いで出てきた処分価格、2,620円です。

いまこの価格で売り切れれば、来シーズン6,000円で売ると同じになります。厳密にはもっと有利です。管理手間、倉敷料、保険料などが不用となるのがメリットです。商品はシーズン内に売り切って、お店はいつも旬の商品で一杯になるようにして下さい。くれぐれも商売は生(なま)ものを扱うという気持ちをお忘れなく。



## 武田 孝一

千葉県スポーツ用品組合 理事長  
有限会社 武生(サンスポーツ)会長

いつ訪ねてもじっとしていることの無い人で、実に分かりやすい「具合が悪い」と聞いたことがない、この原動力はどこから湧き出ているのか聞いてみた。

### 《元気の源》

早寝早起きを実践しており、自作の野菜、近所の農家で頂いた物を美味しく食べる事で丈夫な体と気力が湧き出ているようだ。さらに10年程前から始めた敬老の日や祝い事の赤飯炊き、朝4時前に起きての作業は爽快で、身内、友人、また近所の高齢者に感謝を込めて配っている。「いつもありがとう」と言われるとうれしくなって涙することもあり、この後何年続けられるか解らないが、体の動くあいだはやっていくとの事で私にとっても楽しみである。

### 《仕事人?》

スポーツ店の店番の他に、夏は花火屋に変身、火薬取締りの免許を取って、各地の花火大会、盆踊り、運動会、千葉マリスタジアムでの打ち上げにも出かけている。米作りは市内のホテルと契約して納入し、店の一角に設けた、精米所は近隣の方達に利用していただき、小遣いとなっている。また、野菜作りも生き甲斐で約30種類の野菜を栽培して皆に配って回るのも楽しみにしている。

休日は正月三日間が唯一の休日となる、応援する地元のJAL AGS 駅伝チームが元旦の実業団駅伝に出場すれば、群馬まで応援に行き、2日、3日は箱根駅伝のTV観戦が休日となる。あとは定休日に台風襲来とか大雪で休む日以外、一日として家の中にはいないのである。スポーツ店は盆、暮れ、正月と休みはあるが、当人は何処かしらに出かけている。これができるのも何をしても文

今年10月2日に行われた土浦全国花火競技大会の際打ち上げられた武田氏の花火。この模様はNHK総合テレビで、土曜特集として生中継された。



句を言わずに見ているヤマノカミ様の支えと元気な体を作ってくれた、母のおかげであり感謝している。

### 《ボランティア》

近くに成田市サッカー協会の倉庫兼事務所があり部屋の鍵管理及びチーム・選手登録の事務にも協力している、武田さんは同協会の顧問の肩書きがあるとはいえ名誉職ではなく、実働されている。地域集会所の貸出し予約から日々の点検、会計事務なども15年ほど続けられている。また、今では珍しくなった自宅前にあるバス停待合所の管理として、掃除や床板の修理等にも近所の有志と実施している。昨年秋には痛い思いもした、修理の準備中に木材の束を足に落下させ骨折3ヶ月ほどは十分な活動が出来ずかなり落ち込んでしまったこともあるが、ゆっくり休めという警告かもしれない。

### 《仲間是人財(材)》

組合の役員を前任の西宮理事長から要請され受継ぐ際自分の能力では無理だと断ったが、年の順でやって当たり前、皆が協力応援することでやることになった。人の持つ能力は素晴らしいと感心する、各方面に亘りをつける事務方、テキパキと会計処理をする人、期待通りの協力に支えられ何事の心配もする事無く現在に至っている。来年千葉県で開催されるインターハイに向けては、若い実行委員を前面に出して、隠居は後押しに徹していくつもりである。

現在の社会情勢で最も心を痛めていることが、イラク問題である。いかなる理由があるにせよ武力を持って他国を攻める事は許されることではない。心配事もあるがスポーツ店の仕事と趣味のつながりから、武田さんの周囲は常に人が集まっている、各分野の人物がいて色々な事を吸収できるから面白い、我らサラリーマンとは違い偏りが無い、これこそが本当の人財(材)だと言える。損得勘定を持って近づくものならすぐに見切られているだろうと思う。これからも楽しく、時には厳しい注文もしながら末永くお付き合いをお願いします。

リポーター：さかたつや

(注) 空港で著名な成田市は人口9.6万で、大型量販店が覇を競っている、氏の店は物販だけではなく、各種のメンテナンスに注力して、地元の顧客とのコミュニケーションを大事にしながらの商売に徹している。店は殆ど長男に任せているが、氏の昔からの人脈と人柄で、客の出入りが切れる事はない。少年サッカーチームの監督をしているリポーターのさかた氏もそんな一人で、武田氏の事は誰よりも良く知っており、箇切れの良いスパイスの効いた名文なので、そのまま掲載させて頂いた。

## 「張人」プロジェクトの推進



株式会社ゴーセン・張人事務局  
川久保清志

### ガットのトップメーカー

弊社をご存知の通り世界で最も歴史のあるガットメーカーです。1960年代前半ですが、世界に先がけて、当時の新素材ナイロンに着目し、ガットの開発に成功しました。これが今でもナイロンガットの代名詞と言われている「ハイシープ」です。その精神と技術は今も我々に脈々と引き継がれ数多くの特許を取得し、弊社独自の「テックガット」「海島ガット」最近では、世界初の植物性分解ガット「バイオガット」を発表し、現在に至っています。又平行してマシーンの開発にも早くから取り組み、油圧式、手動式、電動式を次々と開発し、常に世界最高級のマシンをラインナップしています。その間、日本テニス協会や他からの依頼で「デビスカップ」「フェドカップ」を始め「ジャパンオープン」「セイコースーパーテニス」「東レパシフィック」等々国内外のオフィシャルストリンガーを努め張り技術も蓄積されて来ました。

### ガットの大切さ

私は仕事の関係上ラケットスポーツ業界ではプロ選手を始め、多くの方々と出会ってきました。正直なところ一部の人を除いてラケットやシューズに比べて、ガットはギアとしての認識、関心はさほど高くないのが現状です。私の周囲を見渡してもガットに関心を持っているプレイヤーはほとんどいません。ボールが飛ぶのは「ラケット」「ボール」「ガット」の元の形状に戻ろうとするバネの「和」です。ラケットの性能を100%引き出す上でも最も注目しなければいけないのはガットなのです。最近腕や肘の障害が増えているのも、この事と無関係ではないような気がします。ラケットには適したガットとテンションがあります。それを使うプレイヤーの要望やプレイスタイルを聞き、体格、筋力等を加味しながら、適切なコンディションを考え、提供出来る知識と張り技術を併せ持ったストリンガーが不可欠なのです。

### 「より長く」「より楽しく」

このプロジェクトは全国のラケットスポーツ

ファンが「より長く」「より楽しく」プレイ出来る環境整備を、ガットメーカーの立場から何かお手伝いしたいという思いからスタートしました。ガットの知識が豊富で又、ガット張りの技術もしっかりしており、時にはプレイの相談にも乗ってくれる、そんな頼れるお医者さんのような「張人」が全国に数多く居たらどんなに安心かとの思いで、このプロジェクトを推進しています。

### 張人の店

現在の「張人」は弊社の営業活動の中で、お客様の信頼が厚く、ガットの知識が豊富で、張り技術もしっかりしており弊社のこの考え方にご賛同を頂いた方です。

またその「張人」が居られる店を「張人の店」として登録させて頂いています。今年7月にスタートし、今日現在で全国で300人を越える張人が誕生しました。張人の皆様とは既に始めていますが「親睦会」を通して知識や技術のレベルアップを図って参ります。

今後の「張人」の登録システムに関しましては、現在企画中ですが、各地でガットやガット張りに関する「講習会」を行い、ユーザーの皆様が安心・納得出来る張人になって頂くために、一定の基準を設定して行く予定です。「張人の店」に「張人」が一人も居ないという事はありませんが、大規模店でも一人しか居ないケースは有り得ます。「張人」が講師として、お店全体の知識や張り技術の向上を期待致します。

### ガットメーカーとしての役割

弊社はこのプロジェクトにおいて営業的なパートナーはしておりません。ガットメーカーとして、ラケットスポーツファンのためになればと企画し展開し、今日に至っています。ですから、「張人」は一度登録したら、ずっと継続されるというものではなく、2年程度の更新制にしたいと思っています。更新時には「勉強会」を開催し、場合によっては再講習を受けて頂く事も想定しています。しかし登録抹消という最悪の事態は避けるべく事前に対処したいと考えています。

最後にこのプロジェクトは、まだ緒に就いたばかりです。これから様々な問題が起こると覚悟致しています。しかし弊社は前段で申し上げました通り、ガットメーカーとして、皆様と協力し、ラケットスポーツファンが「より長く」「より楽しく」プレイ出来る環境整備の為に、より一層の努力と研鑽を重ねて参る所存でございます。

### 「世界の子どもに スポーツを送ろう！」



野田



辻川



菊池

奈良県運動用具小売商組合事業理事長

野田 詢

奈良県運動用具小売商組合事業理事

辻川 準一 (GSスポーツ)

(報告)会計理事 菊池 彰信 (株)ヒカリスポーツ

「世界の子どもにスポーツを送ろう！」というタイトルで野球の日の8月9日から体育の日の10月11日まで奈良県組合全店でキャンペーンを実施する事となりました。「君の思い出を世界の子どもたちへ」という大売出しの感覚で、なんて大風呂敷なキャッチフレーズを付けてしまったのかと恐縮しつつ、新しい体制でスタートした当組合の新事業について御報告させていただきます。

#### 事業部の発足

当組合(野田詢理事長)は組合員数29名、年会費24,000円で運営致していますが、多数の組合と同様、財政的に厳しくなっているのが現状です。

そこで昨年近隣の大阪府組合を見習って、事業部(青年部という年齢でもないの…)を作り、事業収入を増やそうという議案が総会で可決し、事業部長に御所市 辻川準一(GSスポーツ)が就任し、他7名のメンバーで事業部が発足しました。

#### 裸のつき合いが組合の団結力

早速、事業部のメンバーは、仕事を終えて県中央部の健康ランドのロビーに集合しましたが、約2時間の会議後、自腹で入浴して、湯船で更に話し合いをして、湯あたりをしながら事業内容を煮詰めて行きました。この裸のつきあいが、今の奈良県の組合の団結力かも知れません。

#### 事業の三本柱

- ① 組合の収益アップをはかる。(県の受注・売店等の運営等…)
- ② 組合活動をPRして各店の知名度、売上をアップする。
- ③ 共同仕入れを検討する。(タグフットボール、スポーツライン事業部)

以上の3つが重点目標として決まりました。

#### リサイクル&エコロジー

先の②の内容を話し合っていくうちに、最初は県の商工まつりに出店してサプリメントの試供品を配ったりグラブの修理をしよう等々いくつかの提案がありました。

その中で、当店(ヒカリスポーツ)が2年前セールを開催した時に、「リサイクル&エコロジー」と称して、不用のグラブ、バット、スパイクを持ってきたら金券を進呈し、程度の良い物を修理して、社会福祉協議会にボールを添えて寄贈(有志からもボールの寄付あり)をしたら感謝状を頂き、大変喜んで頂いたという話をすると、そこからどんどん構想が膨らんで来ました。

#### 議論百出

試案が決まれば後は方法論が議論百出、告知する方法、集める方法、修理する方法、いろいろな意見が出ましたが、社会貢献になるので利害関係も少なく賛同を得られたと思います。とにかく失敗は成功の母、やってみて反省すべきは反省して次回に繋げようと石橋を叩かないで渡り始めました。

#### 世界の子ども達へ

期間は、野球の日と体育の日をPRする為に決まり、後援も県教育委員会にOKを頂き、協賛各社の協賛金と加盟店から事業会費2,000円を頂きポスター100枚とチラシ500枚を作成して、県内の全市町村教育委員会や野球連盟、ソフトボール協会等に配布しました。加盟店に、グラブ、バットを持って行くと、その店の金券(2,100円以上の買い物で525円の割引)を進呈します。加盟店は集めた物を、問屋の営業マンに託して、事業部員8名の店に送ります。後日、事業部員が集まって選別して修理しボール等を添えて発展途上国の子ども達に送りたいと思います。

#### 一石六鳥

以上が事業の流れで、社会貢献なのですが、次のようなメリットがあると思います。

- (1) 後援の教育委員会等とのパイプが太くなった。
- (2) 組合・加盟店の知名度がアップした。
- (3) 各加盟店にポスター・チラシを配布して貰ったので、外商や販促の話題作りになった。
- (4) 新規顧客開拓や販売促進につながる。
- (5) 組合員の結束力が強くなった。
- (6) 非加盟店への組合加入アピールになる。等々。

#### One for all. All for one.

昨年の近畿ブロック役員会で、施設にボールを贈る事が決定し、更に今年からは、それがJSRの全体事業になりました。スポーツ店のいちオヤジでは出来ない事が組合に加盟し、積極的に発言し活動する事によって可能になると思います。

各組合とJSRのますますの発展を期待致します。

#### <One for all. All for one.>

「ひとりとは皆のために。皆はひとりのために」



## 主人の「スポーツ店への思い」を胸に…

京都市 エイコースポーツ  
今井千賀子

組合員の皆様、2004年J S R京都大会には、北から、南から全国各地より、残暑きびしい京都へようこそお越し下さいましてありがとうございました。

大きな大会に出席出来る機会に恵まれ、良い経験が出来ました事を、嬉しく思っています。皆様を、お迎えして、受付や二次会、観光等、自分に与えられた立場を、精一杯、努力させて頂きました。現在、京都の東寺のある所より少し西の方面で暮らしています。

結婚して運動具店の経営に携わりましたがこうした仕事につきましては、何も知らないままのスタートとなりました。

### 主人の熱い思い

ある寒い冬の日の事でしたが、コーヒーをすすりながら、「僕のやりたかったことが、このスポーツ店の仕事であって本当に良かった……」と、主人が言ったのを、今でもよく覚えています。スポーツが大好きで、楽しみながら始めた仕事でしたが、2年も経たない内に健康診断で心臓を患っているのが判明し、間もなく手術を致しました。しばらくは入院することになってしまいました。その後仕事に復帰して少しずつ無理のない程度から仕事に戻りました。いつも健康状態を見ながらの一日でしたから、寝る頃になって、ようやくホッとしている私でした。仕事をしながら、毎日そのくり返しでした。他の人から見れば、明るく朗らかでとても病気をした人とは思えなかったようです。

地域のソフトボール大会や体育祭等、いろんな行事に参加して欲しいと頼まれる事が多くて、断るのが本当につらくて困りました。しかし手術して12年後、帰らぬ人となってしまいました。それは、昭和の最後の年でしたが、本当に残念な事でした。

### 忙しい毎日

やがて年号が平成に変わりましたが、これを機に、私もいつまでも悲しみに停らず、平成に向けて心機一転なくてはいけないと思いました。かと言って平成に馴染めたわけではありませんが、

前向きに行こうと決心しました。子供の頃から姉に何でもやって貰い依頼心の強い子でしたから、頼りない私をおいて、主人もさぞ心配で心残りだったと思います。それにまだ若かった主人にも考えていた夢がありました。神様は無情でした。悲しくてとても不安の連続でしたが、仕事と家事それに人とおつきあい等に暮れる日々でした。

今までとは生活も何もかもが変わって本当に忙しい毎日となりました。親戚の人や周囲の人、主人の友達に助けられて何とかここまでやって来ることが出来ました。正直な所顧客の数が減少するのを心配していました。軟式野球連盟の事務局をやらせて頂き、会社関係、学校、少年野球等にも納めさせて頂きました。今考えると、その頃はまだ今より世の中が良くて、子供もたくさんいましたので良い時代だったのかも知れません。なんとか私でもやってこれたのは本当に幸いでした。

### 来年 エイコースポーツ40周年

やがて、組合に顔を出すようになりましたが、当初、組合の事や皆さんに慣れるのに、とても緊張もしました。しかし、それも月日が解決してくれたようです。

又、朝から夜まで余計な事を考える暇もありませんでしたが、それは私にとりましては救いでもありました。やがて、消費税が課せられ3%~5%になって、次第に商売も難しい状況になってきました。だからと言って、どうして良いのかわからず、今日に至っていますから、なお少しでも勉強して努力しなければならないのかも知れません。この仕事を続けてきて、人々がスポーツをするという事は、健康上はもちろんですが、精神衛生の面でも不可欠な事だという事が分かりました。私達のこの仕事は、その手助けをしているのです。私が今こうして元気に過ごせるのも主人がルールを引いて残してくれたこのスポーツ店の仕事出来るからだろうと思っています。来年、このエイコースポーツも発足して40周年を迎える事になりますが、主人の「スポーツ店への思い」を胸に、これからもこの小さな店を守って行きたいと思っています。



## J S R リポート30号発刊と J S R 5周年を記念して

(参加者) J S R 理事長 辻本 昌孝  
副理事長 谷 久人  
" 清水 誠一  
" 高野 政宣  
(司会) " 小関 和夫 (広報委員長)  
(記録・編集) 理事 竹原 和彦 (広報副委員長)

《創刊は平成8年2月28日》

(司会) 本日は紙上座談会にご出席頂きまして有難うございました。リポート発刊30号とJ S R 5周年を記念致しまして、これまでの思い出や、これからの展望等をお話し願いたいと存じます。創刊号は平成8年2月28日の発行ですが、辻本理事長が企画から編集まで一人でなされたのですから、苦労が多かったと思います。理事長、その辺からお話し下さい。

(辻本理事長) はい、苦労という程の苦労ではありませんでした。何故リポートを作ったかと言いますと、私が理事長をお受けして、全国の組合員の皆様へ返返し出来るものは情報しかないという事でリポートを作る事を考えました。プロではありませんから、出来る事からという事で、出来事をありのまま御報告するという気持ちですすめました。

最初はA4の4ページぐらいと思っていましたが、やっているうちにお伝えしたい事がだんだん増えてしまって12ページとなって、現在に続いてきた感じです。内容的には素人でしたか

ら難しいものであったと思います。

(司会) 当時の事をいろいろ聞き、思い出してみますと、これは大変だったと思います。レールを引いた後は走れば良いのですが、レールを引くというのは大変な事ですから…。

(辻本) 名簿が完備出来ていませんでしたので、2回程宛名確認のハガキを送って、住所を確認しました。リポートを発行するためには、まず住所録の発行が先ですから、常にリフレッシュを心がけて、作業を致しました。

(司会) 創刊号には兵庫県の宇多理事長から「阪神淡路大震災のお礼と報告」が出ています。清水さん、当時の状況について一言お願いします。

(清水副理事長) 神戸の状況はすごかったです。その当時は、京都は森さんが理事長の時でしたが、新年会の時には、全員から寄付を集められまして持って行かれましたが、口では言えない様な苦労があったと思います。たまたま、その日私は休みでしたが、家内はスキーに行くという事で、おにぎりづくりの時間



でした。ケイタイが今のように普及していなかったもので、公衆電話に人が群がっていて、大変な状態でしたが、又電話が通じなくて困りました。しかし、そんな中でも、店のこわれた所はありましたが、幸いにもケガがなく良かったと思います。

## 《第1回スポーツ用品小売ワールドサミットへ参加》

(司会) タイミング良くといえますか、創刊号にシカゴで開催された「第1回スポーツ用品小売ワールドサミット」の報告が載っています。理事長、ワールドサミットについて少しお話しください。

(辻本) 私達の組合は国内問題だけで良いという考えもありました。しかし、折角の海外からの誘いがあったものですから出かけました。小売店として、日本もヨーロッパも同じ問題をかかえて、参加して良かったと思います。又、小関さんが英語が出来たのが、本当に幸いでした。



理事長 辻本昌孝

(司会) 私が始めて常務理事会に出席した時に海外研修を提案したいと思っていましたので、アメリカから誘いがあって、タイミングが良かったと思います。あの常務理事会に出ていなかったら、私とワールドサミットの関係はなかったと思います。

会議の後でNSGAの理事長がメッセージを寄せられ「この会議が歴史的な会議であった」と言われ小売業者の関心が国内の事だけでなく、国際的に共通である事が確認された事は本当に意義の深い事だと言われました。そしてこのワールドサミットが翌年からドイツのミュンヘンで第6回まで開催され、その都度J S Rレポートに報告致しました。私はドイツの理事長と前後3回のインタビューを通していろいろ学びました。ナイキが自分の国にやってきてアウトレットショップで安売りする事への抵抗、しかしユーザーが求める物は取り扱いたいという組合員とのディレンマ。あくまでもドイツの組合員の利益を守るんだという強固な意志と実行力。これもレポートで報告しましたが、谷さん、何かお感じになりましたか？

## 《団結力を持たないとメリットは生まれない》

(谷副理事長) そうですネ…当時の話をお聞きしました時、アウトレットショップで、ナイキが安売りをするとしたら、ドイツの組合員の店では全店が売らないという様に聞きました。そこ

までの団結力と組合員の意志を把握している理事長を羨ましいと思いましたが、又そうあるべきだと思うと同時に、それだけの団結力をもたないと組合としてのメリットは生まれてこないという風に思いました。そして出来れば、それだけの団結力を持った組合にしなければいけないと私は感じました。

(司会) 確かその件では谷さんからお電話を頂いた事がありますネ…日本では独禁法で禁止されているので、谷さんも言いたいんだけど言えないと後でお聞きした事がありますが…

(谷) ナイキだけでなく、どこでもそういう事が起きたらどうするかという事を、九州ブロックでも検討した事があるのです。アウトレットで出すかどうかではなく、何か一つ、メーカー、その他に対して、何かあった時に、それだけのまとまりが出来るかどうかを話し合った事がありましたが、九州ではそれが出来る、これはやろう！という事を皆が了解をしました。ただ、それが出来るかどうかを公取の方に聞いてみたのですが、公取は「それは駄目だ」と言われた事がありました。

しかしそれだけのまとまりを九州ブロックはもちたい、そしてそれはもてると言えますネ…ですから今でもそんな問題が起きたら、九州ブロックは一つにまとまると言えます。

(司会) ドイツでは環境問題と地域総合型スポーツクラブの勉強もする事が出来ました。その後、アイドリングストップのステッカーを作ってJ S R挙げて取り組んでいるわけです。又ドイツ最大のスポーツクラブのFCバイエルンを、理事長と視察しました。理事長、その辺を少しお話しください。

(辻本) 今でこそ日本はゴミの分別も進んできていますが、ドイツではその当時でも環境問題が進んでいるのには感心をしました。ドイツの子供は幼稚園の頃からゴミの分別の仕方を勉強しています。又、FCバイエルンを見学して、そのすばらしい施設に驚きました。サッカーのプロチームを持っていることは知っていましたが、卓球やバスケット、ハンドボール、体操等もありまして、これこそ地域総合型スポーツクラブだと思いました。

日本でも鹿島アントラーズが鹿島という小さな町でそれを見習って来ています。川口会長もドイツを手本として、それを誘導しているという話です。日本も週休2日制となって学校の部活の方も従来と変わって、その受け皿としての地域総合型スポーツクラブがなかなか進んでいませんが、ぜひとも早く、普及することを願っています。

## 《totoのお陰でJ S Rの法人化》

(司会) 7号にサッカーくじの記事が載っています。理事長、サッカーくじtotoを組合事業にするために、随分ご苦労があったようですが…併せてtotoの現況についてもお話してください。

(辻本) totoにつきましても、全国のブロックの総会に出た時、totoは我々の業界のサッカーというスポーツの名のついた新しい事業である。各ブロックのスポーツ店で扱えるようにして欲しいという話であったので、私はそれをめざして文部省やJ T Bへ出かけ行動を起こしました。そうした中で、これは法人化しなければ出来ない、という事が分かったのです。全運小連は49周年の総会も終えて、50周年を直前に迎えようとしている時でしたが、J S Rとしては、法人化への道を選ばせて頂きました。サッカーくじのお陰でJ S Rが出来た事になります。そのような事でもなければ、なかなか任意団体を法人化する事は困難であったと思っています。結果として残念なことです。現在36店に減ってしまいました。主体が役所がらみですから、決定事項でないと公報してくれないので、情報開示が遅れそのうち〆切りを迎え募集に関しましては苦しい思いをした事を記憶しています。

もっと早く情報開示してくれれば、組合員の皆様にもっと分かりやすく出来たのにと残念でした。申し込んだが情報が分かたらやめるという具合で、事務局としては大変苦労致しました。

(司会) それがきっかけとなってJ S Rが法人化出来た事はよかったですネ…

(辻本) しかし口の悪い人はギャンブルをするために、法人化するのかという人もいましたが、そうではなくて、スポーツ振興のためのサッカーくじです。初年度には600億円売れまして、施設を作るのに貢献しましたが2年目は400億円、3年目には200億円に減少してしまいました。サッカーくじの補助金は3年目には0近くなってしまうので、4年目も200億円程いけそうですので、4年目以降右肩上りで、増加させたいと思っています。

(司会) 10号には「J S R創立総会」の報告が出ていますが、あれから早いもので、満5年経過したわけですね。理事長の感想はいかがですか…

(辻本) 私はそんなに長期ビジョンを持ってJ S Rの事業を推進してきたのではなく、各ブロックを廻らせて頂いている中で、素晴らしい事業を全国に紹介したり、良い提案を理事会で協議してまいりました。J S Rになって5年になりますが、現在をめざしたのではなくて、単年度単年度やってきました。5年たってふりかえって

ると、これだけは出来たが、これから5年間をNext Stageとして素晴らしいNext Stageにするために謙虚にとりくまなければいけないと感じています。

(司会) 谷さんには、事業委員長として11号から委員会報告を書いて頂きましたが、その事についてどうぞ…

(谷) 私の場合、事業委員会は、J S E Cと公取のこの2つが主なものでしたが、幸いキチッとした組織でしたから、そこからの情報を頂きながら書かせて頂きました。お伝えするに当たりましては、J S E Cと公取に迷惑をかけましたが、そのお陰で書いて感謝しています。



副理事長 谷 久人

## 《新しいデザインが好評》

(司会) 総務委員長としての高野さん、ショッピングバックの責任者としての報告と苦労話等について、どうぞ…

(高野) 私がショッピングバックの担当になったのは2年前であり、活動自体がのみこめていない様な状況の中で、共同購入の仕事がまかされましたが、右も左も分からない中で、当時J S Rにとって実際利益がどれだけあったのか分からなかったし、実際続けて行くべきかとか、今までの在庫の処分も考えねばなりませんでした。

横浜の業者に変えて、今年度は新しいデザインを取り入れて、竹原さんの御要望もありましたが、シューズ袋のカラーを3色にしてカラーの面では苦労もしましたが、セットの組み方もいろいろにしましたので、今年は業績も上がって、このまま続けようかどうかと考えています。又、店名を入れるかどうか、これからの課題で、希望も取り入れて行きたいと思っています。評判も良くなって若い人にも人気があったようです。

(司会) I T委員長の清水さんは途中から引き継がれたわけですが、委員会報告等についてどうぞ…

(清水) I T委員会はもともと上田さんがやってこられた後を引きついでわけですが、苦手で分からない状況の中でしたが、メンバーも知っている方が多かったので、若い人の意見を聞いて、橋渡しの役をして理事長の力添えを頂き、なんとかやってこれました。

上田さんのお力も得て、和気合々若い人との話も楽しかったと思います。おかげ様で名古屋・京都と会合を開きだんだん分かってきました。

## 《顧問総評は、J S R理事会のバックボーン》

(司会) 11号から安部顧問には毎号ビジネスエッセイを連載して頂いています。全国にいわゆる安部ファンがおられまして、読んだ後に、わざわざ電話で話して下さる方がおられて、大変うれしく勇気づけられると申しておられました。理事長、そのへんについてどうぞ…

(辻本) 安部さんはJ S Rを設立する時に、ある人から「法人化するという事は大変な事だよ…運動具屋の実業する者が集まっても大変な事だからアドバイザーを一人お願いしてはどうだ…」と言われました。5年前の設立の時、安部さんをお願いをしました。悪い事は悪い、良い事は良いというようにハッキリ言われる方をお願いをしました。

J S R理事会でも毎回顧問総評を頂いていますが、いつもバックボーンとなっていて、いつも我々を正して下さるありがたい方です。又安部さんはこれだけ続けてよく書く事があると思うくらい、J S Rレポートの一つの柱として又、魅力の一つとして続けて頂けて感謝しています。

(司会) 読者としましても大きな喜びだと思えます。我々のJ S Rレポートに、こんな素晴らしいエッセイが載るといことはほんとに楽しみです。

## 《地域社会に貢献されている姿に感銘》

(司会) 12号から“スポットライト”欄を作り第1回に福島県渡辺前理事長にご投稿して頂いてからもう19名の方に御登場をお願いしております。高野さんこの欄について感想をお聞かせ下さい。

(高野) 私も自分ではまだ若いと思っていますが、それでももう60才を過ぎています。1回目の渡辺先輩をよく存じ上げていました。毎号、毎号出ていらっしゃる方は我々の皆大先輩ですし、それなりに御苦労の話等良い話が聞けるようで楽しみにしています。これからもそういう先輩のお話が、紙上で聞けるのは、全国は広いから思いがけない方がおられて楽しいものです。

(司会) ふだんは分からない、あの人にこんな面があるものですね。谷さんスポットライトについてのご感想をどうぞ…

(谷) 正直に言いまして私が一番興味をもって見ているのはこのスポットライトなのです。素晴らしい諸先輩ばかりですが、スポーツ業界にとらわれないで、どの方もその地域社会に活躍され貢献されている事を感じます。ここまで地域社会に努力されている姿に感銘を受けますね…我々役員が一番大切にしなければならないその

地域社会に取り組まれている事は素晴らしい事ですネ…

(司会) こうした先輩の事を知るという事は参考になるし勉強にもなり、自分も頑張らねばという思いで刺激を受けます。

## 《京都大会は47都道府県全部参加》



副理事長 小関和夫

(司会) 14号に [J S R第1回盛岡全国大会] その後、毎年全国大会のことをレポートしています。来る9月15日には京都大会の予定です。去年は福岡大会を立派に開催されました谷さん、年1回の貴重な大会を開催するに当たっての心構えとか留意点など、そしてこれまでの大会の評価等についてお話し願えませんか…

(谷) J S Rになっての1回目の盛岡がすばらしかったですネ…それを見本に各県が見習って充実してきました。去年の福岡大会は、笹渕理事長、武宮実行委員長の2人がほとんどの事をやられましたので、私は何も苦労らしい事をやっていないんです。ただ全国大会をやるに当って、開催県としては、お客様を迎えるという気持ちでいるんですが来られる方も、自分は客だと思って来られます。でも本来やっているのは自分達の組合の大会ですから、そんな事は自分達でやってと思われる事でもクレームとなってしまう事があります。自分達の大会を自分達でやっているという気持ちも必要だと思います。その様に大会をやってみて感じましたが、この事は今まで大会をやった所では、どこでも感じていられる事だと思います。連絡が遅いとか、いろいろありますが、自分達の大会という自覚が欲しいですし、精一杯の大会を共にやりとげたいと思います。しかし大会自体は、年々キチンとなってきたように思われます。

(清水) 早くから準備を始めましたので、大体出来ましたが、やはり動いてくれる人と動かない人がいます。力を合わせる事が大切なのですが、どうしても一人の人に負担がかかってしまいがちですが、皆んなでやっていかねばならないと思います。しかし、仕事は若い人は早いしスムーズです。準備の中では、資料づくりが最も大変でした。

今回はなんとか喜んでもらえる、そしてゆっくりしてもらえ京都大会を心がけます。竹原さんから毎回欠席の県がどこかあるんやでと言われていましたが、今回は47都道府県全部が出

席の返事を頂いています。今まで全部出ているのかとばかり思っていました。今回始めて、全県参加となって本当に嬉しかったです。理事会に報告したんですが、皆んなやる気になってくれました。

(司会) 先程の谷さんのお話ではないですが、準備も大変ですが、開催して終わるまで御苦労が多いでしょう。どうぞ頑張って下さい。

#### 《コストのかからないポスレジの開発》

(司会) 17号にポスレジ実証実験のための補助金申請が採択されたとありますが、ポスレジについて理事長お話しください。

(辻本) ポスレジにつきましては、上田さんが「利益なき所に繁栄なし」ということから、ポスレジを使わなければならない…大型店がポスレジで伸びているのに、それについて行こう…追いついて行こう…というのは難しい。零細店が手作業だけで生きて行けるわけないだろう…でもコストがかかってはいけないのでコストのかからないポスレジを開発しようというアドバイスにのりました。初年度は1,000万円予算の全額国から補助金として頂く事が出来ました。方向を決めて、翌年ソフト開発にかかりました。本当は億という予算が必要となりました。4割が自己負担ですから、それはとても無理ですから、ソフト屋さん無理矢理頼みまして1,000万円の予算をたて4割の自己負担で始める事が出来ました。今になってみますと、本当に良いものが出来たという風に思っています。スタートに当たって上田さんは「これはJ S Rが作るにしてもメーカーや卸の協力なしでは完成しない」と言われたので、まずメーカー卸にお願いにまいりましたが、それによって良いスタートが出来ました。

データの通信だとか、商品マスターの通信・納品データの通信等が大変スムーズにメーカー卸さんから頂けるようになって、ジャンコードを使って出来るようになって、こんなにも早く軌道にのるとは思ってもみませんでした。順調に進んで現在80店以上の契約が入ったという事は大変嬉しい事だと思っています。

J S Rから400万円の自己負担を頂いてスタートを致しましたが、今では収益からほとんどカバー出来ましたのでホッと致しております。

(司会) 谷さん、ポスレジをお使いになってのご感想をお聞かせください。

(谷) 私自身はワープロも打てないくらいですが、今、自分の店の必要としている項目が該当するには、1~2年かかるそうなんです。今それに取り組んでいる状態なんで、今そこまで実感し

て分かっていません。半年1年の間に今後若い者中心に頑張りたいと思っております。しかしやはり自分で出来ない、何事も興味ないですネ…

(辻本) 資料はいろいろ出てくるんですが、余りデータがくわしくいろいろあっても分かりづらいものですから、「一番シンプルなものから1枚のシートだけを私に見せれば良いよ」と言っています。2年前から店にPOSを導入しましたが、昨年から外商の方も採用しました。こんな事私が言っただけでは何ですが、外商の方がなかなか大変なようで社員は一生懸命努力しています。難しい面もありますが、頑張りたいと思っています。

(司会) 安部先生も言って居られましたが、J S Rとしての大きい財産ですし、こんなに安い料金の組合員であれば活用出来るんですから、考えていきたいですよネ…

#### 《組合を代表した責任ある発言》

(司会) 広報委員会では、全国理事長会議の開催ごとに、アンケートをとらせて頂き、理事長さん方のお考え、各県組合の動きなどについてレポートしています。理事長、全国理事長会議についてお話しください。

(辻本) J S Rは現在14人の理事で物事を決め動いているんですが、その他の情報は47都道府県が年1回の総会で会する事だけでは不安なものですから、総会の時と2月のJ E S E Cの会合の際と合わせて、年2回開催させて頂いております。経費のかかる面がありますから、折角の機会として情報交換の場として有効な場となるように願っていますが、生きた会議に行きたいと思っています。時にご批判もありましたが、前回の分科会方式は全部の理事長さんからのご意見を頂く事が出来て良かったというお話しもあります。これからは新しいものを加えた意義のある理事長会議に行きたいと考えています。

(谷) 全国の理事長が一同に会する機会は、やはり年に2回くらいはあるべきで、必要だと思います。ただ各県の理事長さんは一人一人が各県の代表という意識をもって欲しいですネ…ともすると、組合を代表するのではなくて、自分の店を代表しているような発言や意見がありますが、残念ですネ…自分の後には何人かの組合員がいるという気持ちで、もっと活発で責任ある意見が欲しいと思います。

(司会) 最近組合のスポーツパウダー事業について論議されていますが、そもそもスポーツパウダー事業の元祖は神奈川県組合さんであり、10

年前に山形県が、ご指導いただいて実施していたわけです。そのことを福井の全国大会で発表いたしました。それに神奈川県組合さんは、自前の事務所をお持ちであり、専任の事務局員も抱えていらっしゃいます。高野さん、その辺の事も併せて是非お話し頂きたいのですが…

(高野) スポーツパウダー事業に関しましては、平成10年の神奈川県国体を前にして、それ以前に山形県さんへ視察にお伺いした事からおつき合いが始まります。現状では地元の建材やが、同じ内容のものを安く出しています、大変激戦であります。学校も生徒数が減少して、売上げをあげる事も大変のようです。今、組合の斡旋価格ですと、なかなか買ってくれなくなってきているようです。福井大会で私も事例発表を致しましたが、その時のスローガンが「もう一度見直そう！店を仲間を…地域の姿を…」という様にもっと近隣等、他の県とのおつき合いを見直そうと思ったりします。そんなおつき合いから、別の内容の情報がとれば、パウダー以外の新しい事業も考えられると思っています。研究して行きたいと思えます。又、神奈川の組合事務所は永年の念願でしたが、国体の利益配当を基にしまして、小さいながら中央会の指導で事務所を購入出来ました。事務職員がいつもいる事で、それぞれの店の相談が受けやすい型となって、事務職員が居るのが当たり前になってしまっております。



副理事長 高野政宣

## 《「体育の日」の企画は

兵庫から近畿へ…そして全国へ…》

(司会) 体育の日の事業として、“児童養護施設にボールを贈ろう”運動を実施しようとしていますが、清水さん、この件についてお話しください。

(清水) この事業は、もともと兵庫県の組合が3年程前から売出しをやるという事でポスターを作ったりしてやっていた事からスタートしています。体育の日を記念して続けていたのですが、神戸のチョコレートを贈ろうというスタイルを真似ることから始まったようです。それを聞いて羨しい企画だったもので、私がお願いをしまして、近畿全体で広げてやらせてもらったのを、今度は全国に提案したわけです。自分でも体育の日を忘れてしまっている有り様ですが、体育の日を商売柄忘れてはいけないという事と、物を売るだけではなくて、別の何かを考

えようという事になりました。この辺から近畿の役員会には人が集まるようになり熱心になってきました。この前の8月の近畿の役員会も23名が集まって熱心に討議されましたが、皆さんが意欲的になって質問も多くなりました。資料もキチッと作らせて頂くようになりました。こういう時代だからこそ、外で遊ばなくなってきたので「ボールを贈ろう！」というのは感謝される事になりました。これぐらいの事で、こんなに感謝してもらって嬉しくなりましたが、JSRにもとり上げてもらって、全国でやるようになってきました。「体育の日」を忘れてはならないという事と喜んでもらえるような貢献が出来たらと思います。

(司会) 高野さん、神奈川県組合さんでは、この件に関して、どんな企画をたてておられますか…

(高野) 私はスポーツ屋なので、忘れられない日という事で10月10日の体育の日が結婚記念日なのですが、それがそうでなくなったというのは残念なことです。

神奈川県は養護施設が30ヶ所余りあります。年3万円の予算で出来る限り続けて行きたいと思っています。

(辻本) こんなに喜んでもらえるという事をぜひ体感して欲しいですよネ…

(高野) これは、この仕事をしている者として世の中への還元と言いましょか、気持ちの表れでなければいけませんし、感謝の奉仕だと思います。

(司会) 京都全国大会は、ウォーキングがテーマの1つのですし、清水さんはその道の先生であり、専門店のお店もお持ちでいらっしゃいます。またウォーキングを近畿ブロックの地域スポーツ助成事業としても実施されました。清水さんその辺の事についてお話しください。

(清水) ウォーキングについては、たまたま全国大会で、時間をつめて村山副会長の講演会を予定しています。昭和39年10月東京オリンピックの時に日本のウォーキングはスタート致しました。初代会長はレスリングの八田会長でした。世界ではオランダが87年前に始まっています。日本で一番大きい大会は、埼玉県の東松山市で人口15万人の町なのですが、10万人以上が毎年集まります。その内25,000人は外国人だそうです。さて、ウォーキング人口は年々増えていますが、年齢的には55才から85才の方がメンバーに多いようです。全国の45県に協会がありますが、目標はもちろん健康ですが、地球一周4万キロが大きな目標でもあります。その目標

のためには約10年弱かかりますが、先ず10年間健康でなければなりません。1日15キロを毎月20日間ぐらい歩くと8年から10年で達成出来るそうです。地方の大会へ出かけますと、だんだんどツポにはまりますヨ…

## 《身近な記事が勉強になり楽しい》

(司会) 広報委員会ではレポートの内容をより充実させるために、27号より「スポーツ仕掛人」の欄にメーカー卸の方にもご投稿頂いております。また「妄言多謝」には竹原さんを中心に、そして28号には、理事長の奥様にご投稿いただき、全国理事長としてのご苦労と、これを陰で支えておられる奥様のお姿が印象的でありました。最近号では「新しい挑戦」「地域スポーツに取組む専門店」「商いみせどころ、気分上昇中」「各県の組合報告」等で組合員の新しい投稿を紹介して、変化をつけるように努力しています。さて、ここでJSRレポートの役割、そして今後どうあるべきかについて、具体的なご意見を頂けましたら有難く思います。順にお話してください。

(高野) 非常に毎号楽しみにして読んでいます。小関さん、竹原さんにおまかせみたいな形ですが、私自身も委員長ということで委員会報告を書く事がありますが、果たして報告事項の方が大切なのかどうかを考えてしまいます。楽しい部分が増えたいです。

(清水) ようやく、JSRの全体の事が分かってきて、これを楽しみに読んでいます。スゴイナ…と思う事が多くて、いろいろ記事をバラエティに富ませて載せて頂き、他の新聞等と比べてみても、一番身近で勉強になることが多いです。いろいろな苦労話を知ったり、勉強にもなりますし、スゴイナ…と思いますが、これは大変な事だと思います。家内もこれだけは毎号見えています…



副理事長 清水誠一

(谷) やはりこういうレポートは、組合員全員が見なければ意味がないと思います。いろいろな形のもので出来て立派なものが出て、充実したものになったと思っています。

(辻本) なんで、こんなに引き出しが次から次へとあるんだろうと思うぐらい、いろいろな記事があり、これは商売をしていないプロではないかと思う事があります。楽しみにして待っているJSRレポートにして頂けた事は嬉しく感謝している事でもあります。ぜひともこれからもこ

の楽しいレポートを続けて頂けたらと思っています。

(司会) 理事長一人で始められたりレポートが、果たしていつまで続けられるだろうと陰口があったわけですが、よくこの30号までこれて、ようやく一人立ち出来たのかなという感じが致します。でもこれからも委員会としては、なんとか読んでもらえるレポートを、いかに作るべきかを、相談しながらやっていくつもりでおります。

## 《より良いJSRにするために、何が出来るか…》

(司会) JSRレポートは、その時々々のJSRの活動や、姿勢がレポートされたJSRの歴史そのものですから、創刊からのお話を聞く事でJSRのこの5年間の歩みもたどる事ができました。これを機に、私共は気持ちを新たに致しまして、更なる前進を心がけねばなりません。そして10周年をめざして、組合体制の強化、事業活動の強化、組合員体質の強化への努力をしなければならないと思うわけであります。最後に皆様の建設的なご意見、問題提起をお聞かせ頂きたいと思っております。

(高野) 全国組織でありながら、隣同士の県でも情報交換も何もないという事が多いのではないかと思います。例えば、神奈川の一方の隣りは静岡県ですが、全く交流がありません。グループが違ってしまいますが、境目をとり払って交流して、事業の拡大が可能だと思われれます。そのためにJSRを利用して、各県の活動状況をもっと知りたいと思います。自分達の権利であり義務ですから、お互いに情報を提供し合っていくという自分達の努力がもっと必要だと思います。

(清水) 交流としてブロック大会や別の県の大会に参加して、勉強するという事が人間関係を強め、横のつながりを深めると思います。地域の近くへ、あるいはいろんな所へ顔を出してはどうかと思っております。本部としても、情報を得る事でもあり、今後こうした横のつながりを考えて欲しいと思っております。一方通行でなくて、こちらから得るために出かける事も大切だと思います。

(谷) 平成8年辻本理事長になって、JSRレポートが出来ましたが、「メリットは何？」と聞かれた時、「組合とは弱い商店主の集まりとして、智恵を出し合って、手をつなぎ合って、支え合って、そのつないだ手にあたたかいものが流れれば良い」と辻本理事長は、その時言われましたが、アメリカのケネディが大統領になった時に「自分のために国が何をしてくれるかを問うのではなく、自分が国のために、何が出来

るかを問うて下さい世界各国の皆さん、アメリカが何をしてくれるかを問うのではなく人間の自由のために私達が力を合わせる事が出来ることを問うて下さい。」と言いましたが、同じことで、JSRがそれぞれの組合員に何が出来るかではなくて、各組合員の皆様の一人一人がより良い組合にするために、JSRに対して何が出来るのかという事を、ぜひ考えて頂ければ組合の体質強化も、もっと出来るだろうし、有意義な組合活動も出来るのではないかと思います。組合とは、大きな輪であり、大きな和であると思っています。

(辻本) 理事長に就任以来、私は理事長として、どうあるべきかと自問自答し、私なりに原理原則にのっとなって、黙々と歩んできた思いでございます。しかし、壁に行き当たると、友人、諸先輩に理事長としてどうあるべきかを尋ね、その道を一步一步、歩んできた気持ちです。私の周りには幸いに素晴らしい方々が沢山おられ、沢山の方にアドバイスして頂いたり、サポートして頂いたお陰で、今が有ると思っています。

私はJSRのメリットの問題を考えます時に、私が30年前にある先輩から指摘された言葉を思い出すのです。その先輩は「幸せの神様はどんな顔をしているか知っているか?」と、問われました。幸せの神様は顔面に髪の毛が茫々にはえていて、後頭部はツルツルなのだそうです。人々は日々、沢山の色々な幸せの神様とすれちがっているのだそうです。しかし、たいてい人はすれ違いざまに、今すれ違ったのは幸せの神様だと気がついて、振り向きながら神様をつかもうとするが、つかめないのだそうです。夢を持ち、夢に向けて準備をしている人には、向うから来るのは幸せの神様だと気がつき、容易に幸せの神様をつかめるのだそうです。JSRのメリットも、幸せの神様と同じ神様ではないかと、ふと思うようになりました。夢を持ち、その夢をより具体的なものにして、私達のこの手でしっかりつかもうではありませんか。

(司会) 以上皆様には創刊から8年半の間のいろんな出来事について、貴重なご意見を頂き、そしてまた、これからの展望についても力強い決意のお言葉を頂き誠にありがとうございました。更なる発展を祈念致しまして、本日の座談会をおひらきにしたいと思います。どうもありがとうございました。

(9月2日収録)

## 編集後記

度重なる台風の襲来。被害を受けられた方々に心からのお見舞いを申し上げます。

◆ アテネ五輪での日本選手団の活躍は実に見事。メダル総数が史上最高の37個。日本中が歓喜し、国民に大きな自信を与えてくれた感動的なオリンピックでした。

ただ、またしても薬物を使用してでも勝ちたい選手がいたことは残念至極。長く厳しい練習の中で、勝ちたい一心でつい薬に頼りたくなる心理も分からなくはないが、ルールを守り、スポーツマンシップに徹する事こそオリンピック精神のはず。スポーツの世界にだけは、不正は無くしたいもの。

◆ 期待通りに金メダルに輝いた選手、期待とプレッシャーに実力を発揮できなかった選手。父アニマル浜口のどら声によるパフォーマンスと熱い期待に応えられず、準決勝で敗れた浜口京子選手は、気持ちを切り替えて、銅メダルを圧倒的な勝利で勝ち取った後、インタビューで「私の人生の中で、金メダル以上のものを学びました」と、淡々と述べられたさわやかなスポーツマンらしい態度に、言い知れぬ安堵感を感じたのは私だけではなかったでしょう。

◆ 京都大会では、地元京都組合の皆様大変ご苦労様でした。大会の運営、接待、講演会などお見事でした。

◆ 先日、御殿場プレミアム・アウトレットを見学。ウイークデーなのに県内外ナンバーの車がパーキング一杯。ナイキ、アディダス、フェニックスの店を回ったが、なんと旧製品が二重価格で堂々と展示されているではないか…。アウトレットは先日の全国理事長会において、討議のテーマにもなったが、ドイツの小売商組合の例にもあるように、JSRとしてもっと厳しい対応を考えるべきと痛感した次第。

◆ リポート30号を迎え、紙上座談会を実施。過去の貴重な体験を、これからのことに生かして更なる向上をめざしたい。皆様のご協力をお願い致します。(K.K.)